

【ものづくり 人づくり 地域づくり】 子ども支援基金、集団賠償請求

ふたつの提案

**(1) 「関東子ども健康調査支援市民基金」
設立を呼びかけへ。**

2011 原発事故で、福島の子もたちと共に、少なからず初期被ばくを受けた茨城・千葉の子もたちの未来を思わざるをえません。しかし心重いことに、「子ども・被災者支援法」さえまもなく、国民の明日の命や健康にかかわる大事であるのに、国会の力も容易に持みがたい状況です。

生協の子もたちの健康調査も組合員や他団体から多くの支援を頂いて実施したものの、小さな生協の枠内ではその継続と地域の子もたちへの広がりはままならないことから、

福島県の市民測定室や全国の団体や医師たちと連携し、茨城ー千葉を中心にした関東地域でのスクリーニング体制（早期発見・早期治療）を市民の手で創設することを、生協から地域に呼びかけることとしました。

被ばく後 10 年間の子もたちの健康を見守るために、持ち運び可能な「甲状腺エコー検査機器」を地域で共同購入して共同利用・運用するための基金を設立します。ポータブルエコー検査機購入資金として250万円、医師・技師さんの手当などの初年度運用資金として250万円、計500万円を募ります。

協力体制として北海道がんセンター前所長の西尾正道さんの協力を頂きます。追って正式に組合員共々、地域の個人や団体、企業に賛同を呼びかける予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。

(2) 東電への「線量計 集団賠償請求」

**個人で購入せざるを得なかった線量計購入代金を東電に賠償請求をしましょう！
生協がとりまとめを行い、弁護士さんの協力を頂きます。**

原発事故後、やまらず「線量計」を個人で購入された方が多いと思います。被害発生から3年の時効が来る前に、損害金額等が明確な「線量計」に絞って書類を整え、「原子力損害賠償紛争解決センター」に申立てを行います。地域の住民のみなさんにも呼びかけ、生協でとりまとめをおこない、集団請求することとします。東海第2原発訴訟を担当して下さっている地元茨城の3人の若手弁護士さんが協力してくれます。「線量計購入の必要性」（相当因果関係）は生協でとりまとめた空間線量調査やセシウム土壌質略量調査のデータを証拠として提出します。

線量計を購入されたみなさん、このニュース中面の「線量計 集団賠償請求 参加申込書」にご記入の上、生協まで提出下さい。折り返し、必要書類・弁護士への委任状等の書類をお送りします。

**5月28日(火)～6月2日(日) "親子で知ろう戦争と暮らし展"**

毎日 9:30～16:30 (ただし、5月28日は 13:00 から。6月2日は 15:30 まで)

【場所】 つくば市民ギャラリー TXつくば駅から徒歩5分 ※入場無料

【写真展】 期間中、戦争中の子どもや女性を中心に、当時の暮らしの写真などを展示します。ビデオ・DVDも、随時上映します。

【戦争体験を聞く会】 戦争を体験した方々のお話を聞きましょう。

「関東子ども健康調査支援基金」設立にあたって

公衆衛生学からの緊急提言－福島の小児甲状腺がん「統計学的に有意な多発」
「極めて珍しい事象が起こっている」「直ちに次の対策を準備する必要がある」

先般発表された福島の子どもたちの甲状腺調査の結果はたいへんショッキングでした。

福島の18歳以下の子ども3万8114人のうち、3名が甲状腺がんですでに手術。7名が甲状腺がんの確率が80%というものでした。

これまで子どもの甲状腺がんは極めてまれで「100万人に1人」とされていた中で、「3万8000人に10人」ということになるからです。

正直、この間生協では「茨城・千葉の子は大丈夫かもしれない」「そもそも子どもの甲状腺は調べられていなかったのだから、今から調べておけばベースラインがわかる」などと楽観視していました。

しかし、医学や公衆衛生の常識からすると、上記のような結果は、「直ちに次の行動を起こすべき」と判断される結果のようでした。反省しました。

『医学と仮説－原因と結果の科学を考える』の著者である岡山大学の津田・山本氏が次のような警告を発しているので紹介します。(岩波「科学」vol.83 No.5 2013)

「病気の多発を疾患のアウトブレイクと呼ぶ。アウトブレイクを察知したら、対策なり拡大調査なりの定められた手順の実行が必要になる。」

「日本では、公害問題や薬害問題などで対策の手遅れが指摘されてきた。素早い対策のために多発が何例起これば、既存の考え方の転換を行うか。その答えは以前から3例と考えられてきた。チェルノブイリ原発事故後の甲状腺がん発生を伝える最も早期とされる学術報告も計3例の甲状腺がんが観察されたものだ」

両氏は、医学の「有病期間と発生率」をもとに、統計的推論(ポアソン分布)を用いて福島の甲状腺調査の結果を分析し、福島での甲状腺がんの発生率が21～231倍(95%信頼区間)になっているとし、「統計学的に有意な多発」であり「極めて珍しい事象が起こっている」と判断を下して

いる。

「因果関係があるとかないかを議論する前に、まずこの程度の定量的分析をおこなって多発を評価する必要がある。因果関係の有無よりもむしろ定量的な情報に沿って次の対策を準備する必要があるからだ。・・・次に備えることを、実際には天気予報や災害対策では行っており、これが現代科学の方法でもある。」

「福島県立医科大学の鈴木眞一教授は甲状腺がんの多発を認めながら、甲状腺がんの発生は事故から4年経つ必要があることを挙げて、原発事故との関連を否定しているが、小児の甲状腺がんの成長に何年かかるかのデータを示しておらず、科学的根拠が見当たらない」

「検証されるべき因果仮説はあくまでも原発事故や放射線被ばくと小児甲状腺がんの発生であり、超音波エコー上の嚢胞や結節の多発ではない。嚢胞影や結節影は、前がん状態ではなく、甲状腺がんが小さい時に嚢胞や結節のように見えるのであり、後にがん細胞が検出されるに過ぎない」

「定型的な定量分析の結果からは、福島県の2011年度の検診における小児甲状腺がんの事例は、現段階では多発と考えて次の段階の計画を立案すべきである」

「次の段階とは、数年後のさらなる多発や、福島県以外の地域の多発の検索、多発が観察された場合の医療体制である。もともと甲状腺がんの医療資源は大きくないので、必要な資源の2年以内の整備を検討すべきであろう」

「因果関係によって病気が多発しているのに対策をとらなかった場合には経済的損害に加えて人的被害が生じる。実際のアウトブレイク対策の現場ではこのようリスク評価も加わる。しばしば日本では、相当の根拠があっても対策がとられず、因果関係の有無が議論されて対策が先延ばしにされる」「この現状が日本の健康危機管理問題に対しても大きな悪影響をもたらしている」。

東電への「線量計 集団損害賠償請求」参加にあたっての注意事項

参加にあたって、あらかじめ次のものをご確認下さい。

1. (証拠書類) 線量計購入の領収書
申立を理由づける証拠書類としては購入時の「領収書」があることが一番です。
2. (領収書がない場合)
購入先に領収書を発行(再発行)できるか確認して下さい。インターネットなどで購入された場合、発注や受注確認が記録されたメール等証拠になるものが残っているか確認しておいて下さい。

3. 現物の写真を用意しておいて下さい。

下記の申込み書を生協に提出下さい。
折り返し、必要書類をお送りします。

※弁護士さんに申立代理人になってもらいますので「委任状」も書いて頂きます。

※※「子ども健康調査基金」にもぜひご協力下さい。

「線量計 集団損害賠償請求」参加申込書

コース名 _____ 班名 _____ 氏名 _____ tel _____

常総生協からも50名以上が参加する「福島原発 告訴団」

大人たちが作ったこの社会で子らは生きる

4/27、第2 回告訴団総会に参加してきました 理事長 村井和美

前日の春嵐の余波が残る総会会場の福島県郡山市には、全国から201人が集いました。皆さんの願いは一つでした。やっていくしかないんだ、を実感しました。

闘う相手は間違いなく事故を起こした東電=国です。平穏な暮らしを根底から奪われた避難生活下の苦しい中で、献身的な弁護士さんをはじめ、スタッフの皆さんを中心に、多くの皆さんが賢明にして懸命なる動きをし続けました。

市民の手による市民のための、広範囲に及ぶ活動は日本史上初の出来事ではないかと思えます。

私たちは私たちで東海第2原発訴訟団の動きにも重なって、お手伝いはできなかったのですが、機に心じた報告には思わず身が引き締まりました。

会費を集めないことに対して会員からはお金はいくらあってもこれからも必要なんだ。“集めようよ”の声にも頑として譲らない武藤さんは言いました。「スタートから決めてきたことです。集めません。これからはカンパでやらせていただきます」と。

この会場でもカンパは11万くらいが報告されていました。お礼を言いながらも“私たちがやることの叱咤激励でなく、みんなが進めていくんだよ”と言いたげでした。



会場からの発言が印象的でした。言いたいことがいっぱいあって、決してせかしてはならないと思える喋り、マイクを持つその姿は、切に責任を感じる大人として現状を何とかしたい。未来の子どもを、大切な大切な命を守りたい、と。

既に、福島の子3人のお子さんが甲状腺の手術を受け、続く7人が多くを待たずして同様な、という報告に会場は沈みました。

事故発生から3年目、避けようのない苦しみの時間の長さは小さな命にこそあります。心も体も嬉しむ日々を取り返したいものです。

福島原発告訴団は誓いました。「人として信じられるからこそ闘えるのです。私たちは見えています。人の道を。復興は人を大切に作る人間の復興です。ご一緒頑張っていこう。」と、いつもながら武藤類子さんのたじろがず揺るがずしっかりの的を得たメッセージに、再度ありがとう。

総会決議文（抜粋）

(前文略)

この1年、私たちは第1次・第2次告訴を行い、適正捜査・起訴を求める署名提出など、被告訴人の刑事責任がきちんと問われるよう、あらゆる行動を続けてきました。

私たちの目標は、政府が弱者を守らず切り捨てていくあり方そのものを根源から問うこと、人間をはじめあらゆる生物、環境に被害を与えた者が正しく責任を追求される新しい日本社会を作り出すことにあります。そのために私たちは、政府や企業の犯罪に苦しんでいるすべての人たちとつながっていきたく思います。

この国に生きるひとりひとりが尊敬され、大切にされる新しい価値観を、若い人たちや子どもたちに残せるように、手を取り合い、立ち向かっていきましょう。

2013年4月27日
福島原発告訴団 総会参加者一同

原.は^{後藤みゆ子 作詞}

- 原.はに咲く 小さな花も
とどろく鳥も 路傍の石も
放射能の雨に さらわれは
二度と元には 戻らない。
- 原発がなぜ 必要なのかと
すべしものが 争奪は可也
変わらぬ工と水 望むのなら
いまこそ語らう 原発はうらな。
- 伝えたい 一人ひとりを
語りかたの 生きとせのむら
この命を生きた 新しい風
遠くの町へ 飛んでいけ。
飛んでいけ。

大地の叫び^{後藤みゆ子 作詞}

大地の叫びが 聞こえるか
海の底に 聞こえるか
力の弱い者たち この世に
この世に 聞こえるか。

命が大切ならば^{後藤みゆ子 作詞}

命が大切ならば 原発はうらな。
今守りたいものがあつたら
原発はうらな。

地球が大切ならば
原発はうらな
今守りたいものがあつたら
原発はうらな。

あなたが大切ならば
原発はうらな
今守りたいものがあつたら
原発はうらな。

【5/11 和綿の種 頒布説明会開催】5月種まき、10月綿の収穫

和わたの種、分かちあい、育てあい JOSO コットンボールチームがスタートしました！

天候不順でしたが、皆さんの気持ちは明るく前向きでした。まだ見ぬ綿成長への想像は笑みに包まれ、綿の花の写真や生長の記録にページを開きながら「わわた」の種頒布は記念すべきその日を待ちます。



中学生の瑞穂さんと優子さんの夢は何でしょう。綿の里交流で福島のお友達と一緒したりようすけ君とはるこちゃんは大きくなって頼もしそう。



昔ね、私の家は綿を集める役回りだったと話す大先輩。あけぼの山の方から来たNさん親子。Wさんのコート裏には男袴袴地に子らの遊ぶ絵柄、その粋な昔の文化空間を懐かしむ一幕も。笑顔しとやかにHさんのメンバーがお揃いでした。

種はいつどこから来たの？から始まり、無駄は

なし、多様に人間の暮らしと共に苦楽を営んできた話で一巡りをしました。コットンボールの様子、透かし見る種の在り処、軽さ、肌触り…、まともは編み物にも揚げ物油にもと進み、製品完成にかかる手間を追ったりしました。

さて締めは、質問が飛びました。それで、私たちの綿はどうしたらいいの？と。段々に決めましょう。まずは期待の種を植えましょう。そして、3年目となる「あいコープふくしまさんと綿の里交流」へ夢心を紡いでいきましょう。よろしく願います。(村井記)



わんちゃん、ねこちゃん、飼い主さん募集！



8月から10ヶ月で二匹とも雌です。
とろも人懐っこく、頭もいいです。
噛んだりなく、トイレも一日二回の散歩で間に合います。
お試し飼いきも出来るので、是非どなたか家族にして下さいませ。
歯磨きも大人しくさせ、無駄吠えもしません。
今のところ、しつけはお座りだけです。宜しく願います m(__)m
(つくば市みどりの 津田三晴)

こちらは生協本部で生まれた子ねこです。

どういわけか、母猫が子猫を生協に置いていきます。昨年生まれた3匹は職員が引き取って家族になりました。

今年、また生まれて、本部の狭い壁の中に入り込んで一晩鳴き明かし、職員に救出されました。手のひらに乗る大きさです。とても賢そう。飼ってあげてください。よろしく願います。



せいきょうまでご連絡ください。 050-5511-3926